

# 中経論壇

経営支援NPOクラブ理事  
中谷 兼武



9月開幕の「ラグビーW杯2019」は、チームジャパンのリーグ戦全勝、初のベスト8進出で日本中を熱狂させ、44日間の観客動員数は、過去最高の170万人を記録し、大成功の大会と評価されて11月2日閉幕しました。

私も今回、ラグビーにとり憑(つ)かれた一人でした。特にラグビーは一心団体の連携プレーが要求される団体競技であり、チームジャパンの「ワンチーム」を目標としたチームづくりが、今回の飛躍の最大の要因であったと思われま

日本とスコットランド戦をTV観戦しながら、中国に赴任した25年前を思い出し、1994年、中国における建設機械工場を視察の1年後、中国との合弁建機製造販売会社の総経理として赴任することになりました。その際、本社で社長に赴任のあいさつに伺ったおり、「Same Boat, Technology and Skill Transfer, Profit」のメモを渡され、「背中に会社の看板があるのを忘れるな」の一言を賜りました。

合弁会社の資本比率は、中国51%、日本49%で、経営権は案分されていました。メモは「Same Boat」が最重要と考えた合弁経営の日々が、昨日のように思い出

## 「ワンチーム」と「セームボート」

# 合弁経営、異国文化の尊重こそ

「合弁外は中国」の例として、日本人に対し「郷に入れば郷に従え」と、中国文

「ここは合弁」の事例として、会議等で「日本では…」と「我が社では…」と自慢げに紹介する日本人に対し「ここは合弁だから、合弁のやり方を心がけよ」と注意し、また、日本人だけの会議・打合せは禁止し、必ず中国人の同席を条件としました。中国人には、合弁の規則・標準(中国の標準にそぐわない場合でも)の遵守を求め、「嫌な者は合弁を去れ」と言い続けました。

「合弁外は中国」の例として、日本人に対し「郷に入れば郷に従え」と、中国文化の尊重を要請しました。就業前には中国のラジオ体操を採り、嫌がる日本人にも強制しました。当時多くの合弁企業の会計経理は、元と米ドルを適用していましたが、元のみにし中国人の金銭感覚を重視しました。

「合弁外は中国」の例として、日本人に対し「郷に入れば郷に従え」と、中国文化の尊重を要請しました。就業前には中国のラジオ体操を採り、嫌がる日本人にも強制しました。当時多くの合弁企業の会計経理は、元と米ドルを適用していましたが、元のみにし中国人の金銭感覚を重視しました。

「合弁外は中国」の例として、日本人に対し「郷に入れば郷に従え」と、中国文化の尊重を要請しました。就業前には中国のラジオ体操を採り、嫌がる日本人にも強制しました。当時多くの合弁企業の会計経理は、元と米ドルを適用していましたが、元のみにし中国人の金銭感覚を重視しました。

「合弁外は中国」の例として、日本人に対し「郷に入れば郷に従え」と、中国文化の尊重を要請しました。就業前には中国のラジオ体操を採り、嫌がる日本人にも強制しました。当時多くの合弁企業の会計経理は、元と米ドルを適用していましたが、元のみにし中国人の金銭感覚を重視しました。